

掲載記事

膨大な市場で追い風吹く介護ビジネス。そこに目を付け、異業種からの参入を果たしたのはほっとステーション（東京都品川区）だ。同社はもともとインターネットカフェや自転車レンタル店のフランチャイズを展開してきた。年々拡大するシニアマーケットにビジネスチャンスを見出し、今回の参入にいたったわけだが、最後発でもある同社は「リハビリ」に特化したデイサービスセンターとして差別化を打ち出した。

「リハビリ型に特化したのは、診療報酬の改定により十分な

**DATA**  
 本館名：ほっとステーション  
 所在地：東京都品川区  
 店舗数：1店舗（直営1店）  
<http://www.hoi-station.co.jp/>



横田紀元社長



**2010.9月募集開始**

**LET'S倶楽部** ■業態: デイサービス

**ドイツ医療認証を取得した専用機器を使用  
 リハビリ特化型のデイサービスを開始**

体調で遊戯できなかつた人が増え続けている現実に対応するためです。あくまでもリハビリなので、対象とする介護度も要支援1〜2や要介護1〜2といった比較的介護度の低い方が、彼ら「リハビリ難民」の需要を汲み上げることで店舗展開が可能だと判断しました」（横田紀元社長）

そのために同社が用いた武器はリハビリ専用の医療器材。ドイツの医療認証である「TUV / ZAT 認証」を取得したトレーニングマシンを使い、より効率的な機能訓練を提供する。

今回のフランチャイズ展開に際しては、介護施設の立ち上げ支援を専門的に行っているリハコンテンツ（千葉県船橋市）と提携。

リハコンテンツ社は自社のリハビリ技術をもとに施設の運営全般を担当し、ほっとステーションが加盟募集から物件選定など、ハード面の支援を行う。